国土の25%が国立公園や自然保護区に指定され、豊かな自然が広がるコスタリカ。
2017年、コスタリカを訪れた日本人の観光客数は約6,000人（全体300万人）だった。
このコスタリカに1998年に渡り、コスタリカの自然に魅了され2005年に現地手配会社を起業、
2013年には日本人で2人しかいないコスタリカ政府認定ガイドのライセンスを取得し、ガイドとして活躍する上田さんに、
コスタリカでガイドの道を選んだ背景やガイドの仕事などについて話を伺った。

コスタリカでサーファーからガイドに転身

望遠鏡で見る自然の世界に魅了されて

ニショクキムネオオハシ

火の鳥のモデル、ケツァール

上田晋一郎
Shinichiro Ueda
スカイハブ・コスタリカ（旧名エコア・トラベル）代表

収録日：2018年2月19日（月）
収録場所：JES事務局
インタビュアー：赤間亜希
（日本エコツーリズム協会事務局）

魔女の岩に魅了されコスタリカへ

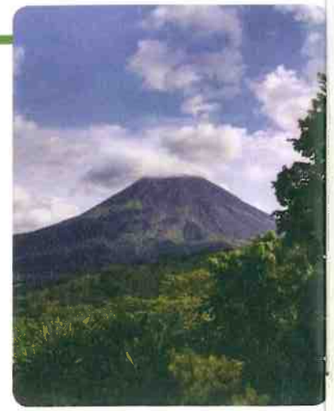
――コスタリカでガイド業に携わるようになったきっかけは何ですか？

上田　以前から「自然」に対する興味はありましたが、コスタリカの自然に圧倒されたのは2001年頃です。当時、私はコスタリカのグアピレスという所でトロピカルフラワー（熱帯植物）を栽培し輸出する農園で管理者として仕事をしていました。実は、初めからガイドになるとか、農園で働くという目的でコスタリカに来たわけではなく、サーフィンをしにコスタリカに来たんです。コスタリカにはウィッチズ・ロック（魔女の岩）と呼ばれるサーファーの間では有名なスポットがあって、そこが「エンドレスサマー2」という映画にでていたんです。それを観て、ここに行かなければ！と思ってコスタリカに来たのが1998年でした。コスタリカに来てから1年間はサーフィンばかりしていました。その後、国際協力機構（JICA）の委託調査や通訳などの仕事をした後にトロピカルフラワー農園の仕事を見つけたんです。

アカメアマガエル

しかし、これが農園といっても整然と植えられているわけでなく、ほとんどジャングルなんです。ジャングルにしか育たない種を自然の中で栽培し、収穫し、洗浄、消毒、パッキングしてヨーロッパに輸出します。ヨーロッパではトロピカルフラワーは高級品なんです。フィールドがジャングルの中だったので野生動物もたくさん見ました。農園で働いている人も地元の人が多く、そこでコスタリカの自然に関する知識を得たり、様々な経験をして、コスタリカの自然ってすごく面白いなと思いました。首都サンホセでは味わえない「生の自然」でしたね。それが、今のガイドの仕事にも役立っています。

この素晴らしい自然に感動し、これを伝える仕事をしたいと思い、2005年に農園を退職して観光の現地手配会社を立ち上げました。当時はガイディングなど分からずに手配や通訳の仕事をしていましたが、ナチュラリストの藤本和典さんのツアーに通訳として同行した時に初めて望遠鏡で観察する世界を知ったんです。コスタリカにはカラフルな鳥類や親指くらいの大きさのカエル、華麗な花をつけるランなど、比較的小さいユニークな動植物が多く、それらを高倍率な望遠鏡でのぞいた時の感動は今でもよく覚えています。それはある程度知っていると思っていたコスタリカの自然の世界がぐっと広がった瞬間でした。この時の感動、そして私のつたない自然に関する通訳を楽しそうに聞いてくれたお客さんの喜ぶ顔を見て、コスタリカでガイドになりたいと思ったんです。



アレナル火山

守り手としての自覚が芽生える「ガイド制度」

――どのようにしてガイドになられたのですか？

上田　コスタリカでは旅行会社と組んで観光ガイドをするには、政府が認定するライセンスを取得する必要があります。コスタリカでは旅行会社のエージェントがガイドを依頼する場合、ライセンスを取得したガイドを雇うことが義務付けられています。このライセンスを取るには、コスタリカ人であること、外国人の場合は居住権を持っていることが前提条件で、政府が定めた講習を修了しなければなりません。職業訓練庁が実施する観光ガイド養成コースを無料で受講する方法もありますし、職業訓練庁が認可した学校で短期集中コースを受講することもできます。ただ、無料コースは昼間に授業があるので働いている人は多少難しく、認可を受けている学校の夜間授業のほうが、有料ですが働いている人は受けやすいです。

私が観光ガイド「一般」のライセンスを取得したのは2013年です。コスタリカ政府が認定する観光ガイドは「一般」、「専門」、「地域限定」の3つで、現在のガイド制度では、まず観光ガイド「一般」のライセンスを取得しガイドとしての経験を積みます。その次のステップとして、ナチュラリストなど専門性が求められる観光ガイド「専門」になったり、地域が限定されている観光ガイド「地域限定」もいます。今は時間がなく「専門」のライセンスは取っていませんが、観光ガイド「一般」のコースにも自然史などの講義が入っている他、日頃からどれだけ探求心を持って自然と接しているかによって多くの知識や経験を積むことが出来るので、ベテランも含めて、ほとんどのガイドが「一般」のライセンスで仕事をしています。その中で、自分の興味のある分野（鳥類、植物、昆虫、両生類、爬虫類、哺乳類など）を得意分野としていくのが一般的です。ちなみに私の得意分野は鳥類です。

――ガイドの声を観光行政に届ける仕組みなどはありますか？

上田　コスタリカには全国レベルのガイド協会（ACOGUITUR: Asociacion Costarricense de Guias de Turismo）があります。そこの代表が、ガイドの間で問題となっていることなどを観光庁に申し入れします。ガイドを代表して協会が発言しますが、ガイドの立場は観光庁の中でも、社会的にも低くありません。コスタリカではガイドがいないとツアーが成り立たないということを観光関係の皆が理解しています。自然という素材を輝かせて見せるのはガイドの腕次第だということをわかっています。だから、いかにいいガイドに案内をしてもらえるかが大事なんです。エージェントが売るツアーはガイド付きツアーですが、全日程に同行するガイドもいれば、スポットで対応するガイドもいます。いずれにしても、ガイドをつけることが当たり前の世界です。ガイドをつけなければ、動物も見つけられず、ただ森の中を歩いて終わりだからです。

しかし、コスタリカでガイドになるのは簡単なことではありません。例えば、森の中に入り、ある鳥を探してくださいと言われても、誰でもできるわけではなく、それができるようになるための訓練、勉強、知識そして経験が必要になります。

リスザル

――ガイド制度は現場で働くガイドにとってプラスになっていますか？

上田　もちろんプラスだと思いますよ。資格を持っているという利点もありますが、自覚の問題ですね。例えば、国立公園の中で、観光客が野生動物にエサを与えようとしている時、ガイドはそれを注意する権限があります。ガイド制度によって自分たちの活動や役割が法的な枠組みで支えられていて、観光活動や社会的な立場だけでなく、環境保全にも貢献できる仕組みになっていると思います。

ガイドをして見えてきたエコツーリズム

――コスタリカでは、ガイドは主にどのようにツアーを売っているんですか？

上田　大きく分けて2つありますが、経験が豊富で自信があるガイドは色々なところから声がかかるのでフリーランスで仕事をしています。一方で、若手のガイドは、まず会社などに所属して仕事をします。ただ、コスタリカではガイドが運転手をしたり、ツアーオペレーターの会社を持っていたりと、ガイド以外の仕事をしています。私もツアーオペレーターの会社を持っていて、ガイドの仕事以外にツアー造成や現地手配、営業などもしています。去年からは日本の旅行会社と契約をしたので、定期的に日本からの送客があり安定してきています。

――コスタリカに来る日本人の興味は何ですか？

上田　火の鳥のモデルとなったケツァール、特徴的なくちばしを持つオオハシ、赤い目が印象的なアカメアマガエルなど、日本のテレビ番組で紹介された動物を見たがる方が多い気がします。今週は日本人のハネムーンのお客様を案内しますが、彼らはナマケモノが見たいと言っていました。以前は年配の方を案内することが多かったのですが、最近は若い人、家族連れなど、日本人の客層も広がってきています。また、日本から来る人以外にも、アメリカ、メキシコ、ブラジルなどに在住している日本人を案内することもあります。年々、コスタリカを訪れる日本人は増えてきていますね。

――最後に、上田さんにとってエコツーリズムとは何でしょうか？

上田　「自然を楽しみ、その価値を再認識するツーリズム」だと思います。そのために、ガイドや旅行会社等の関係者が持続的に開発・保護していくことが必要なのだと感じています。

――ありがとうございました。

上田晋一郎（うえだしんいちろう）
スカイハブ・コスタリカ（旧名エコア・トラベル）代表。福岡県生まれ、コスタリカ在住。1998年コスタリカに渡る。トロピカルフラワー農園管理者、観光業、JICA及び在コスタリカ日本大使館で国際協力のプロジェクトなどに従事し、2013年にコスタリカ政府認定ガイドを取得。現在、ツアーオペレーターとして現地手配やツアー造成及びガイドとして活動する傍ら、コスタリカ赤十字社水難レスキュー隊の全国隊長としても活躍。趣味はサーフィン。

会社情報
スカイハブ・コスタリカ（旧名エコア・トラベル）
Web: ecoa-travel.co.cr
住所：Centro Comercial Sabana Sur local 45-46, San Jos?, Costa Rica
連絡先：shinichiro.ueda@gmail.com